

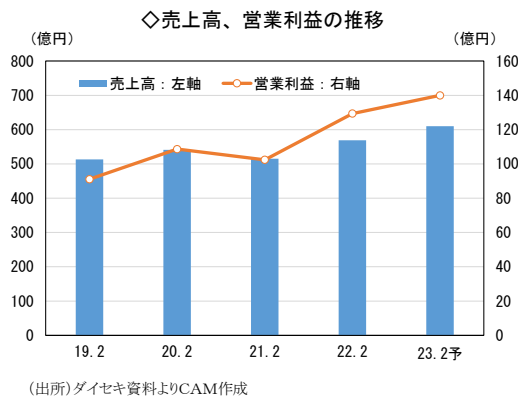
企業ニュース **ダイセキ**

(東証プライム : 9793) <https://www.daiseki.co.jp>

作成者: 奥村義弘

産業廃棄物中間処理事業の大手

1958年設立、産業廃棄物中間処理事業の大手。廃油処理リサイクルでは、潤滑油を再生、廃油を収集し、その成分・性状に応じて再生重油、補助燃料に加工する。排水処理リサイクルでは含油廃水、廃酸、廃アルカリなど企業から排出される液状廃棄物を収集し、「化学的前処理」と「活性汚泥処理」を組み合わせ合わせて処理・リサイクルする。汚泥処理リサイクルでは、採取したサンプルを分析して、脱水、乾燥、混練など最も効率的な処理をし、処理後の汚泥は、可能な限りセメント原料や補助燃料にリサイクルする。その他、土壌汚染関連事業のダイセキ環境ソリューション（1712）、鉛リサイクル事業のダイセキMCR、大型タンク等の洗浄事業のシステム機工などの事業を持つ。



資源価格の上昇も追風に増益基調が継続

22.2期通期の連結業績は売上高が569億円、前期比10%増、営業利益が129億円、同26%増。10月1日に上方修正した会社計画を売上高で3億円、営業利益で3億円上回って着地した。土壌汚染対策を手掛ける子会社ダイセキ環境ソリューションでは、関東の大規模インフラ案件の延期や岐阜地区のインフラ案件のスローダウンの影響が出たものの、ダイセキ単体の取引口座の獲得による受入れ量の増加、リサイクル燃料や鉛などの販売価格の上昇により吸収した。

23.2期の会社計画は売上高が610億円、前期比7%増、営業利益が140億円、同8%増。市況前提はWT I原油85ドル/バレル、為替115円/ドル、LME鉛2,300ドル/トン。足元の実勢値から見て保守的と言えよう。中計では、3年後の25.2期に売上高690億円、営業利益163億円を目指す。旺盛な需要を受けて、設備投資は每期50億円程度を見込む。東日本、西日本を中心にシェアアップを目指し、設備の増強や新工場の開設などを計画する。当面、部品調達難による生産制約やコロナ影響には注意したいが、処理能力の増強、資源価格の上昇などが業績を支えよう。

[株価動向・投資判断]

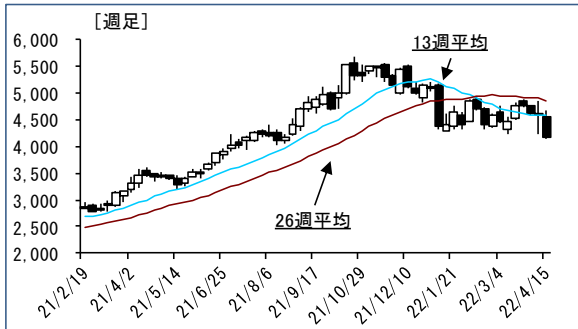
脱炭素社会に向けた取り組みの強まりは同社のビジネス全般に追い風となろう。中長期視点で関心を集めやすい企業と考える。

<9793 ダイセキ 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.2	51,530 (▲5)	10,242 (▲6)	10,451 (▲5)	6,521 (▲7)	127.0	56.00
22.2	56,867 (10)	12,940 (26)	13,118 (26)	8,376 (28)	164.0	60.00
23.2 予	61,000 (7)	14,000 (8)	14,100 (7)	8,800 (5)	174.0	60.00

(注)21年9月1日付で普通株式1株につき1.2株の割合で株式分割を実施。21.2期の1株利益は当該株式分割考慮後の数値



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2022/4/15)	4,165 円
年初来高値 (高値日)	5,180 円 (22/1/4)
同 安値 (安値日)	4,135 円 (22/4/15)
予想 P E R (23.2 予)	23.9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,502.0 円
P B R	2.77 倍
予想配当利回り	1.44 %
(1株当たり配当金 60.00円)	
R O E (22.2)	11.1 %
発行済み株式数	5,100 万株